

だより

●●東名古屋病院

第83号

2021年4月発行

理念

私たちは、医の倫理を守り、患者さんの気持ちを尊重し、より質の高い医療を提供します。

基本方針

- ① 患者さんへの医療内容の説明と患者さんの同意を医療の基本とします。
- ② 地域に密着し、心の触れ合いを大切に医療を提供します。
- ③ 常に自己研鑽に励み、医療人としての専門的知識・技術の習得に努め、皆様に信頼される安全で最新の医療を提供します。
- ④ 健全な経営を維持して療養環境の整備に努め、安心して快適に療養できる病院を目指します。



表紙の花「チューリップ」

CONTENTS

巻頭言／新型コロナワクチン ～切り札となるか?!～

部署紹介／呼吸器内科の紹介

地域医療連携室だより／

コロナ禍における地域医療連携室の取り組み

トピックス／

病気との付き合い方～花粉症・アレルギー性鼻炎～

就任のご挨拶／副院長・統括診療部長



独立行政法人 国立病院機構
東名古屋病院
 NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION
 HIGASHI NAGOYA NATIONAL HOSPITAL

〒465-8620

名古屋市名東区梅森坂5-101

TEL 052-801-1151 FAX 052-801-1160

ホームページ <https://higashinagoya.hosp.go.jp/>





新型コロナワクチン ～切り札となるか?!～



院長 奥田 聡

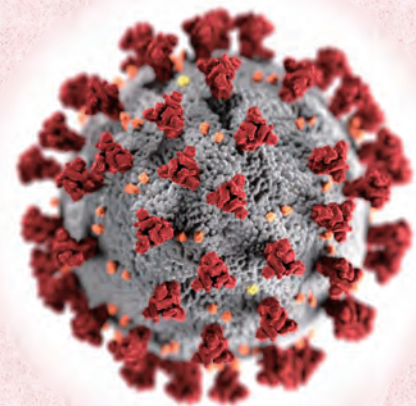
もうコロナの話は聞き飽きた、と感じられる方も多いでしょうね。テレビをつければ『新型コロナウイルス感染症の蔓延により…』という出だしを聞かない日はありません。亡くなられた方は令和3年2月末の時点で7860人となり(全世界の死亡者数は約252万人)、すでに阪神淡路大震災の死者数を超えています。

2年前、新たな年号が決まった時、大地震、風水害など災害続きであった平成を振り返り、誰もが穏やかで平和な時代の訪れを期待しました。しかし、自然の営みの前では年号が変わることなど、一つの区切りにすぎないことを思い知らされました。私たちはいつの時代も何かしらの困難に知恵と勇気で立ち向かわなければならないということなのかと思います。

さて、いよいよコロナ対策の切り札とも言われるワクチン接種が始まりました。この原稿を書いている時点では先行する一部の医療者への第1回目の接種が終わったところです。この「便利」が皆さんに届く頃には、65歳以上の方への接種が始まっている頃でしょうか。ワクチンについてはマスコミでもさかんに報道がされていますので皆さんも随分詳しくなっておられるかと思いますが、これから接種される方のために、いま一度、ワクチンのおさらいをしておきましょう。

① mRNAワクチン(メッセンジャーRNAワクチン)

我が国に一番早く入ってきているファイザー社のワクチンはmRNAワクチンという全く新しいタイプのワクチンです。すべての生物の設計図は細胞の核にあるDNAに保存されていますが、mRNAはこのDNAから必要な部分を写しとり、核から外へ出て細胞内のリボゾームという場所で必要なタンパク質を作る働きをします。今回のmRNAワクチンはウイルスの外側に突き出ているスパイクタンパク(ウイルスがヒトの細胞へ侵入するために必要なタンパク質、右図の赤とオレンジの部分)の設計図を書き込んだmRNAを人工的に作成したもので、注射で筋肉内に入れてやります。



新型コロナウイルスのスパイクタンパク(赤とオレンジの部分)。
米国疾病管理予防センター(CDC)で作成された新型コロナウイルスの模型。
(Wikipedia, public domainより引用)

この注射された筋肉の中でmRNAによりスパイクタンパクが作られ、我々の免疫細胞がこのタンパクを認識して免疫を作ることにより、このウイルスに対する抵抗力ができるわけです。ウイルス自体を注射するわけではありませんので、このワクチンで感染することはありません。筋肉に入ったmRNAはタンパク合成をした後、すぐに分解されてしまい、全身に影響を与えることはないと言われています。(今回はファイザー社のワクチンについてお話ししますが、モデルナ社のワクチンもmRNAワクチンで、ほとんど同じと考えて良いと思います。)

② 有効性

ファイザー社のワクチンは新型コロナウイルス感染症の発症を予防しますが、その有効性は95%と驚異的な高さを誇っています。インフルエンザワクチンの有効性が50%程度と

されていますから、いかに効果が高いかわかりになると思います。3週間の間隔を空けて2回接種するワクチンですが、臨床試験では1回目の接種後10日ほどで、すでに効果が出たと報告されています。2回接種することで、より確実な効果を期待できます。

③副反応

この「副反応」という言葉もよく耳にするようになりました。副反応とは「ワクチンという医薬品による副作用」と「ワクチン接種行為が誘引となった好ましくない現象」を合わせたものです。たとえば、ワクチンの注射針を見て恐怖のあまり失神してしまうことも副反応に含まれます。副反応の主なものは頭痛(2~3割)、倦怠感(1~2割)、めまい(1~2割)、吐き気(1~2割)、寒気(1~2割)、発熱(1~2割)、接種部の痛み(1割)、四肢の痛み(1割)、呼吸困難(1割以下)などで重篤なものはほとんどありません。また、一般的には副反応は2回目の接種時の方が強いようです。ウイルスのタンパクの一部を注射して、自分の免疫、つまり自己防衛軍を活性化し、戦わせるわけですので、こうした反応が生じるのはある意味で必然といえるかもしれません。海外の接種経験では約20回~40回に1人の割合で「アナフィラキシーと呼ばれる強いアレルギー反応が生じた」とされています(2021年1月27日CDC報告)。インフルエンザワクチンでは100万回に1人程度の発生ですから、それよりは少し多いようです。このワクチンのアナフィラキシーは若い方、女性に生じやすいようで、日本の医療者への先行接種でやや発生頻度が高かったのは若い看護師さんが多く参加されていたせいかもしれません。アナフィラキシーの9割以上は接種後15~30分以内におきていますので、ワクチン接種後、一般の方は15分程度、過去にアレルギー反応をおこしたことがある方は30分程度の観察が必要とされています。幸いにこれまでの報告ではこのワクチンによるアナフィラキシーで重篤な状態に陥った方はなく、全員が適切な処置により回復したことが報告されています。

④ワクチン接種を受けることができない方

ワクチン当日、明らかに発熱している人、重い急性疾患にかかっている人は接種できません。

⑤ワクチン接種にあたり注意が必要な方

心臓、腎臓、肝臓、免疫、血液などの疾患や発育障害などの基礎疾患のある人、抗凝固療法(血をサラサラにする薬)を受けておられる方、過去に予防接種や他の薬剤でアレルギー反応をおこしたことがある人、過去にけいれんを起こしたことがある人、妊娠または妊娠している可能性がある方、授乳されている人。

これらの方はワクチンを接種できないわけではありませんが、接種前の診察時に必ず医師に申し出てください。

これまでの情報からは必要以上にこのワクチンを恐れる必要はないように思います。できるだけ正しい情報を知った上で、多くの方に接種いただき、少しずつ日常を取り戻すことができるようになればと願っています。ただし、このワクチンは「発症を抑える」「重症化を予防する」ことは確認されていますが、今のところ「感染を防ぐ」効果があるかはわかっていません。つまり、ワクチンを打ったあと、自分は無症状でも他人に感染させる可能性は否定できていません。したがって、ワクチンを打ったからといっても、マスク着用、手洗い励行、三密を避けるなどの対策は当面継続する必要があります。

厚生労働省のホームページの「新型コロナワクチンについて」というサイトに詳しい最新の情報が載っていますので、ご参照下さい。

入院してもご家族と自由に会える、デイサービスでみんな一緒に歌が歌える、病院で健康祭りを開催し地域の方々に来ていただける、いつかそんな日が訪れることを心待ちにしています。

呼吸器内科の紹介



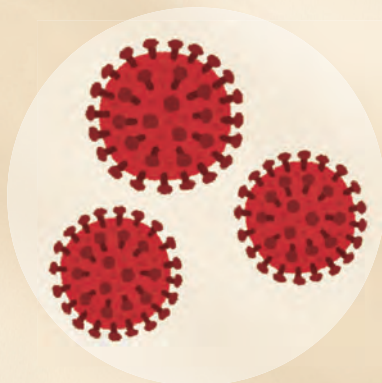
統括診療部長 中川 拓

呼吸器内科が扱う病気は臓器の種類は少ない（ほとんどが肺）ですが、病気の種類はさまざまなものがあります。肺の感染症だけでも、患者数の最も多い肺炎、当院の特徴である肺結核、そして昨年から世界中で猛威をふるっている新型コロナウイルスによる肺炎などがありますし、日本の癌でもっとも死亡数の多い肺癌などの腫瘍性疾患や、慢性閉塞性肺疾患（COPD）や間質性肺炎などの呼吸不全を来す疾患、気管支喘息などのアレルギー疾患などがあります。



長期間のつきあいが必要な慢性疾患も多いのですが、急に悪くなる急性期には呼吸状態が悪化し生命にかかわる患者さんをみることが多い診療科です。

今呼吸器内科というと、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のイメージが強いのではないのでしょうか。当院はCOVID-19のいわゆる感染症指定医療機関ではありませんが、帰国者・接触者外来および発熱外来を開設し名東区保健所と連



携して診断を行ってきました。集中治療室をもつ急性期病院とは異なりますので人工呼吸管理を要するCOVID-19患者さんの診療は困難ですが、第3波になり当院も軽症・中等症の入院患者の診療を行っています。感染対策チーム（ICT）の対策により本稿執筆現在まで当院でクラスター発生をおこしていないことは本当に幸いなことです。



当院呼吸器内科の最大の特徴はなんと言っても結核病棟をもつことです。東名古屋病院の歴史を紐解くと、昭和15年に名古屋市療養所梅森光風園という結核療養所が開設されたことにはじまります。COVID-19流行前は結核が世界で最も死亡者数が多い感染症であり、2018年には約1000万人が新たに結核を発病して約145万人が死亡しました。日本の結核罹患率は順調に減少してきているのですが、結核患者さんの中で高齢者と外国人の割合が年々増加しているのが近年の特徴といえるでしょう。そしてコロナ禍で近隣の結核病棟が次々とコロナ病棟に置き換えられた結果、当院は結核診療の最後の砦となりむしろ結核病棟の入院患者数が増加しました。

また、結核以外の当院呼吸器内科の特徴として、肺非結核性抗酸菌症の診療に力を入れています。結核と同じ抗酸菌という菌のグループのうち、結核菌とらい菌以外の菌をまとめて非結核性抗酸菌といいます。人から人へは感染しませんが、土壌や水などの環境中から感染します。数年～十数年の経過でゆっくり進行する慢性難治性の肺感染症です。そのうち9割はMAC(マック)とよばれる菌による肺MAC症です。治療せずに経過観察できる場合もあれば、重症例では治療してもなかなか症状のコントロールができずに生命にかかわる場合もあります。重症化させないようにすることが重要で、ときには手術を行うこともあります。

真菌(カビ)の感染による肺真菌症の診療にも力を注いでいます。とくにアスペルギルスという真菌が肺結核の後遺症や肺非結核性抗酸菌症に合併して感染することが多く、注意が必要です。

もっともおなじみの肺の病気は肺炎でしょう。



ごくありふれた病気ですが、2019年の死因別死亡率の統計で肺炎は第5位となっており、第6位の誤嚥性肺炎と合わせると実質第3

位といってもいい数です。とくに高齢者の肺炎は生命にかかわります。原因菌にあわせた抗菌薬を投与するだけでなく、呼吸管理、嚥下(のみこみ)の評価、栄養管理、水分管理、適切なリハビリテーションなど患者さん全体をチーム医療でみていくことが重要です。

当院全体の特徴としてリハビリテーションがあります。慢性閉塞性肺疾患(COPD)や間質性肺炎など呼吸不全を来す疾患に対して呼吸リハビリテーションが有効です。苦しいからといって座ってばかりの生活をしているとディコンディショニングとよばれる身体機能の失調・低下によりさらに呼吸困難の悪化をまねくことが知られており、



この負の「らせん」を断ち切るのが呼吸リハビリテーションです。

近隣の超急性期病院と連携して、リハビリテーション目的の転院も受け入れています。重症COVID-19から救命された患者さんも当院に転院され、リハビリテーションでずいぶん良くなっていくのを実感しています。

当院は2016年より呼吸器感染症センターを立ち上げ、難治性の呼吸器感染症に対して高度に専門的な診断・治療をさまざまな施設と連携して行っています。呼吸器感染症に対する外科治療も含めて呼吸器外科と合同のカンファレンスで最良の治療法の検討を行っています。セカンドオピニオン外来も積極的に受け付けています。

咳・痰や血痰、息切れなどの症状がある場合は呼吸器内科に受診してください。ただし、発熱や嗅覚障害など「この症状はコロナかもしれない」と心配になった場合は直接外来に受診せず、必ず事前に電話で相談するようにしてください。どうかよろしく願いいたします。



地域医療連携室だより

コロナ禍における 地域医療連携室の取り組み

2020年度は地域との連携が途切れないよう、新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、病院間の会議や患者さんやご家族との面談、そして入院前のカンファレンス等を制限しながらの一年でありました。

2021年2月4日には名古屋第二赤十字病院との第23回ホットライン研究会(旧名称:第23回脳卒中カンファレンス)が開催されました。開催時は、施設の会場にメンバーが集まり第1部では理学療法士が「当院回復期リハビリテーション病棟患者における栄養状態およびサルコペニアとADL」、脳神経内科医師が「東名古屋病院におけるパーキンソン病の入院目的と転帰(2019年度)」の講演を行い、第2部では脳神経内科・脳神経外科のそれぞれ一患者を通して医師・看護師・リハビリで事例紹介を発表し質疑応答を行いました。初めての試みでもあり音声トラブルも少々ありましたが、1部・2部とも活発な質疑応答がありました。本来、コロナ禍でなければFace-to-faceで、自己紹介等もじっくりとできたのですが今回のようなオンライン会議でも、活発に意見交換でき施設間また、他職種間で情報共有することができました。



地域医療連携係長 吉田 久美



また、当院では入院前の面談を通常の面談以外に電話面談を導入しました。診察後に入院決定の連絡が入ると、電話診療と同様に入院前面談を患者さんやご家族に、電話で実施しています。表情が見えないため反応がわかりづらいこともありますが、入院時に少しでも不安が軽減できるように、より丁寧な言葉でわかりやすく説明し、患者さんやご家族の気持ちに寄り添うことができるように心がけています。患者さんが安心して入院生活を送ることができるよう、入院後に病棟スタッフに役立てて欲しい情報を記録に残し情報共有

出来るように努力しています。コロナ禍での入院生活は家族との面会も、外出・外泊も制限されます。予約制ではありますがWebでの面会も実施しており、入院前面談時にWeb面会の案内もしています。今後も、コロナ禍での生活は続きますが、色々なことを工夫しながら共に乗り越えていきましょう。オンラインでの活用は東名古屋病院だより第82号にも掲載しております。

TOPICS

トピックス

病気との付き合い方 ～花粉症・アレルギー性鼻炎～

現在日本人の4人に1人がスギ花粉症といわれています。春先のスギやヒノキに次いで多いのが、初夏のイネ科植物の花粉症です。ダニやハウスダストなどで1年を通じてアレルギー性鼻炎の症状が出る方も多く、発症年齢も低年齢化の傾向にあります。

アレルギー性鼻炎・花粉症の症状は風邪のひき始

耳鼻咽喉科医長 伊藤 陽子



めとよく似ています。鼻や目やのどがムズムズしたり、サラサラした水のような鼻水が出る、くしゃみが連続して出る、といった症状は風邪ではなくてアレルギー性鼻炎かもしれません。

現在新型コロナウイルス感染拡大が問題となっている中、くしゃみや咳が出ると自分も周りの方々も不安に

なりますよね。花粉症のある方は、症状がひどくなる前に受診して適切な治療を受けられることをお勧めします。

アレルギー性鼻炎・花粉症の治療は、飲み薬の他に鼻にスプレーする点鼻薬、目薬などがあります。飲み薬には、1日1回でよい薬や眠くなりにくい薬などいろいろな種類があります。ぜひ担当医に相談してみてください。また、花粉の飛散期間中は自己判断で止めずに継続して内服しましょう。

時々、「薬はずっと飲み続けなければならないの?」とご質問を受けることがあります。基本的には、症状がある間は飲み続ける必要があります。薬以外の治療としては、①免疫療法、②鼻粘膜焼灼法などがあります。

①免疫療法は「舌下免疫療法」が新しい治療法として話題です。(残念ながら当院では行っておりません。)

②鼻粘膜をレーザーや薬品で焼灼し、アレルギー反応を起こりにくくする手術は、当院で日帰りで行えます。興味のある方は耳鼻いんこう科にてご相談ください。



副院長 就任のご挨拶

脳神経内科 犬飼 晃



この4月から副院長に就任いたしました。今まで同様宜しくお願い致します。

当院はご覧のような緑豊かな環境の中で神経難病医療、結核医療、リハビリテーション医療、重度心身障害者医療を中心に地域医療のお役に立ち、何よりも患者さんの目線に立った医療を推進することを目標に運営されております。私も脳神経内科の一員として、現在まで勤めてさせていただきました。患者さんの目線に立つということは、言うは易しで、なかなか思ったようにはできなかつたかなというのが現在までの反省です。今後はそれに加えて、病院全体としてどう取り組むかということも私の重要な仕事の一つになると思います。皆様からの助言をいただいて正しい方向に一歩ずつ進めることができればなと考えております。

それに加えて昨年来、世界を震撼させております新型コロナウイルス感染症に対して、名東区唯一の公的病院という立場から、今後のさらなる蔓延を防止するためのワクチン接種に関しても、連携各機関と密な連絡を取り合い、皆様が遅滞なく実施できるように努力して行きたいと考えております。宜しくご協力のほどお願い致します。

統括診療部長 就任のご挨拶

呼吸器内科 中川 拓



このたび統括診療部長に就任することになりました。呼吸器内科の中川 拓です。私がこの病院に赴任したのは2004年4月ですので、今から17年前のことになります。その頃は結核患者さんが今より多く、結核病棟が3病棟ありました。(その後徐々に結核患者さんは全国的に減少しており、現在結核病棟は1病棟となっています。)一般病棟には当時肺結核後遺症による慢性呼吸不全の患者さんが多数おられました。今は非結核性抗酸菌症の患者さんが急増して問題となっています。前副院長の小川先生のご指導のもと、非結核性抗酸菌症の診療・研究に力を入れてきました。今は全国の国立病院機構病院に参加していただき、肺非結核性抗酸菌症の臨床試験の研究代表医師をしています。

当院は慢性疾患の専門的な医療、リハビリを含めたチーム医療に強みをもつ病院だと思えます。呼吸器内科の一医師としてこれまで通り診療にあたるとともに、今後は院長・副院長と協力して当院の患者さんのために当院の診療全体がよくなるように努力したいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

外来案内

診療受付時間／午前8時30分～午前11時まで(緊急の場合はこの限りではありません)

診療開始時間／午前9時～

休 診 日／土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始(12月29日～1月3日)

初診時の特別料金／他の医療機関等からの紹介ではなく、直接当院に来院された患者さまは、初診にかかる費用として、2,200円(税込)をいただいております。ご了承ください。
ただし、緊急その他やむを得ない事情により他の医療機関からの紹介によらず来院された場合にあつてはこの限りではありません。

外来診察担当医表(令和3年4月1日現在)

再来診は全科予約制となります。

診療科	月	火	水	木	金
呼吸器内科	初診 佐野 将宏	垂水 修	林 悠太	山田 憲隆／中川 拓 (第1・3週) (第2・4・5週)	週交替制※1
	垂水 修		佐野 将宏		林 悠太
	中川 拓	山田 憲隆	中川 拓／小川 賢二 (第1・3週) (第2・4・5週)	小川 賢二	
呼吸器感染症専門外来		小川 賢二 (第1・3週 13:30～15:30)			
循環器内科	尾崎 令奈		水谷 崇		
脳神経内科	初診 犬飼 晃	横川 ゆき／佐藤 実咲 (第1・3・5週) (第2・4週)	犬飼 晃	饗場 郁子	齋藤由扶子／橋本 里奈 (第1・3・5週) (第2・4週)
	饗場 郁子	片山 泰司	神原 聡子／片山 泰司 (第1・3・5週) (第2・4週)	齋藤由扶子	神原 聡子
	横川 ゆき		佐藤 実咲	橋本 里奈	
		奥田 聡		奥田 聡	
消化器内科	横井 美咲	高橋 宏尚	高橋 宏尚／小林 慶子 (交替制)	小林 慶子	高橋 宏尚／小林 慶子 (交替制)
呼吸器外科			山田 勝雄		
外科・消化器外科	渡邊 正範 (第2・4週)	岩田 直樹	渡邊 正範 (第1・3・5週)	永田 博	渡邊 正範
乳腺外科	林 幸枝	遠藤登喜子	小川 弘俊 (午後のみ)		遠藤登喜子／森田 孝子
乳腺・内分泌外科				今井 常夫	
整形外科	金子真理子	堀江裕美子	小杉山裕亘	金子真理子	堀江裕美子
リウマチ科			小杉山裕亘		
脳神経外科					竹内 裕喜
泌尿器科	岡村 菊夫	小池 蘭美 (9:30～)	青田 泰博		岡村 菊夫 (午前 通常診療・13:30～15:30 女性外来)
精神科					亀位 翼
総合内科／膠原病内科	鈴木 道太	梅村久美子／大島加帆里 (第1・3・5週 9:30～) (第2・4週 9:30～)	鈴木 道太		
血液・腫瘍内科(予約制)	清水 一之		清水 一之		神谷 悦功
内分泌内科					深見亜也子
小児科(予約制)	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子
皮膚科	加藤 愛	加藤 愛	加藤 愛		加藤 愛
歯科口腔外科	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則
耳鼻いんこう科※2		伊藤 陽子	伊藤 陽子	伊藤 陽子	

※1:週交替制／第1週:中川 拓 第2週:山田 憲隆 第3週:垂水 修 第4週:佐野 将宏 第5週:交替制

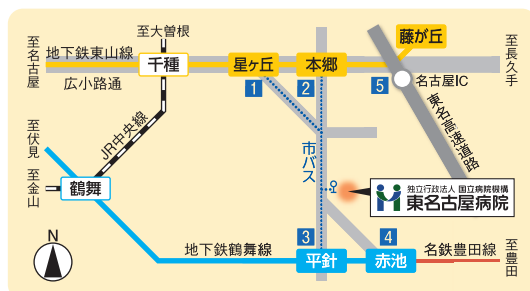
※2:補聴器外来(予約制)／第1・3火曜、木曜 14:00～15:30

●時間外・休日の救急診療については、お電話にてご相談ください。(052-801-1151)

●セカンドオピニオン外来(予約制)を行っていますのでご利用ください。

●火・水・木曜午後に一般健診を行っています。(健診受付は14:00～15:00です。)

病院へのアクセス



- 地下鉄東山線 星ヶ丘駅からお越しの場合
 - 市バス③番のりば 東名古屋病院行きまたは梅森荘行き約15～25分…東名古屋病院にて下車
 - 星ヶ丘よりタクシーにて約15分
- 地下鉄東山線 本郷駅からお越しの場合
 - 市バス①番のりば 地下鉄平針駅行き20～30分…東名古屋病院にて下車
- 地下鉄鶴舞線 平針駅からお越しの場合
 - 市バス①番のりば 本郷行き約10分…東名古屋病院にて下車
 - タクシーにて約8分
- 名鉄豊田線・地下鉄鶴舞線 赤池駅からお越しの場合
 - タクシーにて約8分
- 東名高速道路 名古屋ICより車で約20分